

育つ森

学生が作る街

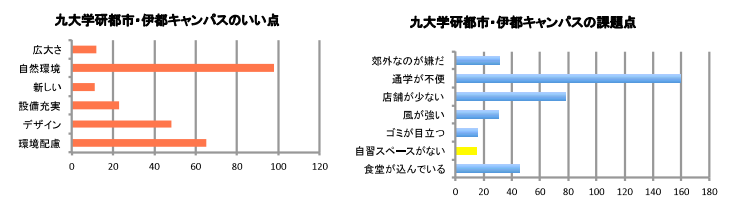


concept

九大学研都市と伊都キャンパス

平成17年度からスタートした九州大学のキャンパス移転に伴い、伊都キャンパス周辺や九大学研都市は急速に発展を遂げてきた。高層マンションが建ち並び、駅や道路は整備され、21世紀の大学キャンパスと学術都市にふさわしい機能と景観を目指して、今も開発は続いている。

新キャンパス計画推進室を中心に、多くの人の努力で進行しているキャンパス移転事業であるが、学生からは、「早く箱崎キャンパスに移りたい」「4年間伊都キャンパスで過ごす工学部は不幸だ」という声が大勢である。そこで学生に「伊都キャンパスのいい点、課題点」についてアンケートをとったところ、いい点が多かったのは「地域の環境を考慮して開発が進められている」「生物多様性保全の取り組みは素晴らしい」などの環境配慮に対するものと、「周りが緑に囲まれ、気持ちが静まり授業に集中できる」「自然環境が豊かで落ち着いた大学生活を送れる」などの自然環境の良さについてのものであった。逆に、課題点としては、「都心部から遠く交通が不便」「周りに店がない」などが多かった。



大学で教わり、自分で深める

課題点にも「自習スペースがない」という意見がある。九大学研都市にはファミリーレストランが2件あるが、試験期間になるとそこが九大生でごった返す。伊都キャンパスの図書館も同様で、最寄りの西部図書館やその他多くの店舗では、九大生の持ち込み勉強を禁止している。「家で一人だと集中力が持続しない」「誰かと教え合いながら勉強したい」というのは学生の切実な本心である。また、試験期間以外は勉強しないというのは、大学生にありがちな傾向である。しかし、ふと思いついたときに気軽に行ける勉強場所があれば、少し違うのではないかな。

駅からキャンパスまでは、バスで20分くらいの距離で、歩いて行こうと思うと1時間くらいかかってしまう。学研都市駅周辺に住んでいる学生にとって、伊都キャンパスは行きたいときに立ち寄れる場所ではないのである。しかも図書館や飲食店では、途中で閉まってしまうし、夜遅くになればバスや電車もあまりないので、勉強したい学生の居場所がない。

24時間開いていて、お金がなくても立ち寄れる施設を多くの学生は求めている。糸島の自然を感じる

部屋のユニットをずらしながら重ねることによって、屋根の上にそれぞれの個性のあるオープンテラスができる。そこに緑を植えて、全体が森のような空間が生まれる。これらの植物は、時間が経つと、どんな風にでも成長し、思いもよらない形を見せてくれるだろう。それを、ここで勉強した人たちの未来と重ねて、「育つ森」という名前をつける。

地域との交流

現在、伊都キャンパス周辺に学生のためのマンションが多く建設されている。移転に伴ってその他の生活機能も進出してくることが予想される。キャンパス周辺の開発は、そこに住む学生にとって急を要するものである。しかし、学生マンションが建ち並びスーパーやコンビニができて、そこでは九大の学生間の交流しか生まれえない。そこで、学生と地域との結びつきを考え、大学の機能を学研都市駅周辺に広げる計画を考えた。まず、学生のための自習スペースや図書館が必要である。また、伊都には小中学校、高校、そして幼稚園もあり、小さな子供や主婦、中高生も気軽に使える施設を考えた。

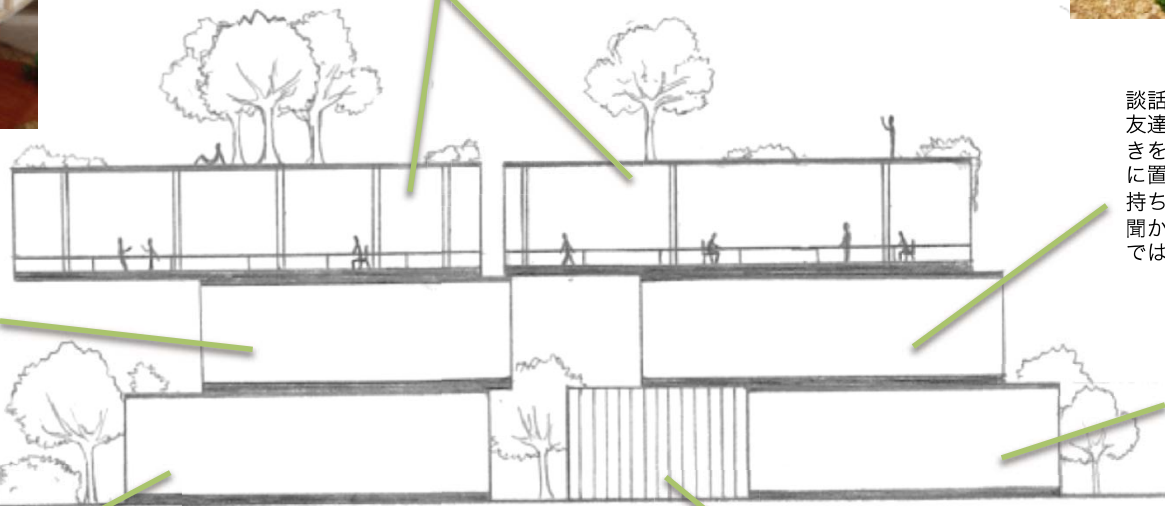
キャンパス移転に伴って、地域や住民を取り巻く環境はめまぐるしく変わっている。大学は地域に貢献することで、まちを動かす原動力となるのである。住民が気軽に利用できる大学の機能や、学生が地域に働きかける場をつくり、広げていくことによって、九大の移転が完全に修了する頃には大学と住民の生活が交差しひとつのまちをつくりあげる学術都市を提案する。



自習室 (大・小)
3Fは、一人で集中するための部屋である。すべての机を外向きに配置し、周りにあふれる自然を眺めながら学ぶことができる。全面ガラス張りなので、青空教室のような気分ですがすがしく、緑は心を落ち着かせる。また、すべての机を外向きにしたことで、利用者は向かい合わせになることはない。ただし、通路を歩く人や、前の人の背中は見える。適度に他人の存在を感じることは、集中力をうまく高めてくれる。ここは、九大生だけではなく、中高生や大人も利用する。

資料室
図書やPCを置く部屋である。自習室とは階を分けて、「ちょっと調べに行く」感じを出した。部屋は小さく、蔵書は必要最低限しかない。あくまで図書館とは別物であることを強調したい。

カフェ・オープンスペース
軽食をとれる場所を作った。お腹がすいてきたときに、建物の中に飲食店があると、気軽にすぐに食べられる。隣には屋外のオープンスペースがあり、外で自然を感じながら食べることもできる。



シャワールーム
集中できる時間が来るのは人それぞれで、それがいつなのかは本人にも分からない。ずっと勉強し続けたいという人のために、シャワールームを作った。ここだけ周りはガラス張りではなく、天井と同じ木で覆い、デザインにメリハリをもたせた。

談話室
友達と相談をしたり、会話をしてちょっと息抜きをする部屋。静かな3Fと賑やかな1Fとの間に置いた。テーブルがたくさんあって、資料を持ち合って相談することや、子供に絵本の読み聞かせなどをすることができる。ただし、ここでは飲食禁止。

託児所
小さい子供のいるお父さんやお母さんは、一人で集中して何かをするという時間はほとんど作れない。そんな人たちにも利用してもらうため、建物内に託児所を作った。子供たちが騒いでも大丈夫なように、大自習室からは一番遠い場所においた。